

伊
特

碩 心

社団法人 日本詩吟学院学風会 認可 可行
神奈川 碩 心 会 発 行

3年12月現在会員数
逗子地区 165名
葉山地区 247名
大船地区 48名
(合計) (460)名

3年12月号(233号)
発行 岸 岳 萃
編 集 者 岳
中 村 愛 岳

◎第101回 全国吟道大会の開催について

日時・平成4年3月29日(日)10時開会

会場・東京ベイ・エヌ・ケイ・ホール
(幕張メッセ)

千葉県浦安市舞浜一ー八

JR京葉線「舞浜駅」下車

参加者・碩心会割当80名(奥伝以上)
構成吟合吟に出吟

参加費・三千元

県本部より補助五百円出ます
ので自己負担二千五百円

◎第18回 全国選拔者吟道大会

日時・平成4年7月12日(日)

場所・九段会館ホール

◇右大会には左記予選会を通過された方が
出場となります。

(地区予選会について)

(1) 碩心会予選会

日時・平成4年1月20日(月)午後7時より
場所・桜山下会館

◇前回神奈川予選会出場者は今年も碩心
会予選会に参加のこと。

◇15人〜20人位を対象にその中から選出。

◇右予選通過者は左記予選会に。

(2) 神奈川予選会(県本部他二会)

日時・平成4年2月11日(祝)

場所・平塚農業会館

受審料・千円(含・弁当代)

◇予選通過・漢詩19名・和歌17名

◇右予選通過者は左記予選に。

(3) 関東地区予選会

日時・平成4年3月22日(日)

場所・神田パンセホール

◇地区予選会出場資格は認可団体所属会
員で、中伝以上の有資格者

◇奥伝以上になってから三回以上入賞し
た者及びレコード吹込者は除く。

◇予選通過 漢詩16名・和歌16名

◇努力賞 漢詩8名・和歌8名

◇右予選会を通過された方が、前記本大
会に出場となります。

全国選拔者吟道大会の吟題

(漢詩五題)

- 1 春日の作 (2巻6頁)
- 2 弘道館にて梅花を賞す (2巻16頁)
- 3 盧山の瀑布を望む (3巻55頁)
- 4 胡隱君を尋ぬ (3巻71頁)
- 5 時に憩う (愛吟集32頁)

(和歌五題)

- 1 東風吹かば (朗詠集26頁)
- 2 安政六年十月二十日書簡 (〃58頁)
- 3 わが身ありとは (〃62頁)
- 4 柳あをめる (〃74頁)
- 5 山水 (〃88頁)

◇右の中から選題して下さい。

◎碩心会 初吟会のお知らせ

日時・平成4年1月12日(日)10時~16時
場所・逗子京急ピーチセンター
会費・三千元
申込・12月10日迄に企画部長村田方迄
担当・堀内支部(之)・風早支部

※当日出席者はネームプレート着用です。

第102回全国大会参加

◎県本部 吟行会について

標記の件につき、平成四年度神奈川県本部事業として、青森大会に参加する事が決定。吟行会は会員相互の親睦と和を図るため、各会よりふるって多くの参加を募集。大会の行われる十月中旬は、十和田を中心として、紅葉のトップシーズンの為、参加者の把握を例年より早めにするとのことですのでよろしく御協力下さいますよう。

記

日時・平成4年10月17日(土)~20日(火)
コース・十和田・青森・下北周遊(後記)
会費・十一万五千元(含・出吟料他経費)
申込・来年1月12日迄に企画部長村田方へ
(主なコース) IJR船バス
10・17東京——盛岡——鹿角——大湯りんご園——
発荷峠——休屋——十和田湖上遊覧——子の
口——奥入瀬溪流
10・18奥入瀬——八甲田山睡蓮沼——峠の茶屋——
青森市内(全国大会)——青森市内
10・19青森——野辺地——ハマナスライン——むつ
市——本州最北端大間岬——佐井——仏カ浦

島めぐり——佐井——薬研

10・20薬研——日本三大霊山忍山——むつ湾——野
辺地——三沢空港又は青森空港——日本エ
アシステム便——東京羽田空港

◎碩心会 五十五周年開催日決定

右会が平成四年六月七日(日)葉山福祉文化会館で行われることが決定しました。その日に向ってがんばりましょう。矢嶋先生場所とり御苦労様でした。

◎碩心会 春季審査会決定

平成四年度春季審査会の会場が村田、森さんのお骨折りでとれました。来年の審査受審の方は今からがんばって下さい。
とき・平成四年三月八日(日)
ところ・逗子図書館ホール

碩心会 常任理事会ひらかる

日時・11月12日(火)午後七時より
場所・桜山下会館
議題・55周年大会分科会の進捗状況他、

県本部 最終理事会（納会）終る

11月30日（土）6時30分より新杉田の神奈川労働総合センターに於て、平成三年度の右会が行われました。当会から根岸会長他13名が参加、県本部の今年の行事も無事に終了いたしました。

姉妹会・寒河江吟友会より

心温まる嬉しいお便り

去る十一月四日、寒河江吟友会二十周年記念大会に、会長根岸先生他と同行させていただきました。私は帰着後、寒河江吟友会会長高橋先生に御礼状を差しあげ、その中に、少年少女吟に感動したことをひとこと書き添えましたところ、大変よろこばれ、小学生の前で私の手紙を読んで下さったとのこと。そしてその時の様子を校長先生からお手紙で知らされ、又々私は感動いたしました。吟を通じての嬉しい交流ができ、いつまでも心の中に温めておきたいと思えます。

高松小学校詩吟部の皆さん、がんばって

校長先生からのお便り（一部要）

秋も深まり、ここ山形は朝夕めっきり寒くなり、遠い山々はもうすでに雪化粧をいたしてあります。

先生にはお忙しい所、わざわざ寒河江にまでおこしいただき、寒河江吟友会創立二十周年記念大会にご臨席いただきましたこと、誠にありがとうございます。衷心より御礼申し上げます。

当日は高松小学校詩吟愛好会の児童の合吟をおききいただき、身にあまるおほめのお言葉をいただき、至上の慶びといたしているところです。子供達は高橋庄岳会長先生から、先生のうれしいうれしいお便りを読んでいただき、目をらんらんと輝かせ、聞き入っていました。会長先生もうれしさのあまり感動し、声をつまらせておられました。子どもたちは大喜び、今更ながら自分達の吟詠について考えを新たにしたようでございます。秋日の良き時、私は校長として、愛岳先生の温かいお心を無にしないよう、吟道の心を子ども達に伝え、心豊かで、世界に誇れる日本人育成に努めたいと思っている所です。

愛岳先生、本当にありがとうございます。

高松小学校校長 大築孝也

冬夜

藤原惺窩

天外雲霽れて碧空寛し

月を賞し詩を吟じて夜の闌に坐す

窓岫檐峯黄落の後

清光雪に和して満庭寒し

（語 釈）

岫しやう岩穴のある山・峰・山の頂上。

檐えん軒ののき。

黄落わうらく草木の葉が黄色くなって枯れ落ちる。

（訳 詩）

雲晴れて青空広し

月を賞で詩を詠めば夜は更けわたる

窓の山軒の峰落ち葉散り果て

清き光雪に映えて寒さ骨刺す

（藤原惺窩）（一五六―一六一九）

江戸初期の儒者。藤原定家十三代の子孫として生まれた。はじめ僧となったが、次第に儒学に傾き、のち還俗して朱子学によって身を立てた。林羅山はその弟子。

練吟

メモ

訓み

○常盤孤を抱くの図 梁川 星巖

雪は笠縁にそそいで風たもとを巻く

こゝ乳をもとむる若為の情ぞ

他年鉄かい峰頭の險

三軍をしったするは是れ此の声

(一部常用漢字使用)

よく吟詠されるこの詩の中で、第二句の「若為の情ぞ」の意がはっきりしないと言われているので、紙数不足ながら触れてみたい。

○「若為の情」とは(どんな気持ち)ということであるが、ここの扱いについては学者間で二説に分かれている。その由来するところはどうやら訓みの違いからであるらしい。

(一)こゝ乳をもとむ(又はむる)若為の情ぞ

(二)こゝ乳をもとむるは若為の情ぞ

(一)は、「乳をもとむ」でも「乳をもとむる」でもよいが、いずれにしても「もとむ」の次に一拍置いて「如為の情ぞ」と続くので、ここに「常盤」が入るといふのである。すなわち、常盤が若為の情ぞといふことになる。

(二)は、「こゝ乳をもとむるは若為の情ぞ」と

一句が意を通してある。従って、子は空腹を訴えて泣き叫びながら乳房をさがし求めているが、どんな気持ちでいるのか、なにもわからないだけにふびんである」という意。

○岳風会の教本通釈はどう扱っているか。第二句の部分だけを抽出して掲げる。

激しい吹雪の中を、ふところに抱いた幼な

児は、声をあげて泣きながら、母親の乳を

求めている。この難儀に、乳呑み児を抱いた

た母、常盤の思いはどんなであつたらう。

右の解釈は言うまでもなく(一)の訓みにもとづく「常盤」説である。

○財団(日本吟剣詩舞振興会)の教本通釈はどう扱っているか。

(今若、乙若の手を引き、牛若を懐に抱いて、追手を逃がれてさまよう常盤の姿は見るも痛ましい。牛若は空腹を訴えて)泣き

叫びながら、乳房をさがし求めているが、

どんな気持ちでいるのか、なにもわからない

だけに、かえってふびんである。

○漢詩、特に絶句は字数が少ないため、日本の俳句もそうであるが、字句の省略が効いており、従って、訓みも微妙に異なる場合が生ずるし、それに伴って解釈にも相違が出る。

今年も残り少なくなりました。寒さの折、健康にはくれぐれも気をつけて新しい年を迎えましょう。

養生十訓

少肉尋菜(野菜を多く)

少塩尋酢(食塩を減らし酢を多く)

少糖寻果(菓子よりも果物を)

少食寻嗜(腹八分でよくかんで)

少煩寻眠(クヨクヨせずよく眠る)

少怒寻笑(おこらずいつも笑顔で)

少言寻行(人に言うより自ら実行)

少欲寻施(自分の事より他人のために)

少衣寻陽(太陽を浴びて薄着を)

少車寻歩(乗ることよりよく歩く)

(移籍)

201 荒木佳風 208 小池和風 308 栗山久風 447 神藤葉山

右四名が葉月支部より逗子B支部へ

(入会)

634 小峰一子 葉山町堀内二六八

(諏訪) (電) 〇四六八一七五―三三九九

(退会)

359 鈴木劭山(葉月) 480 松村匠泉(星山)

641 吉村好美(山の根)